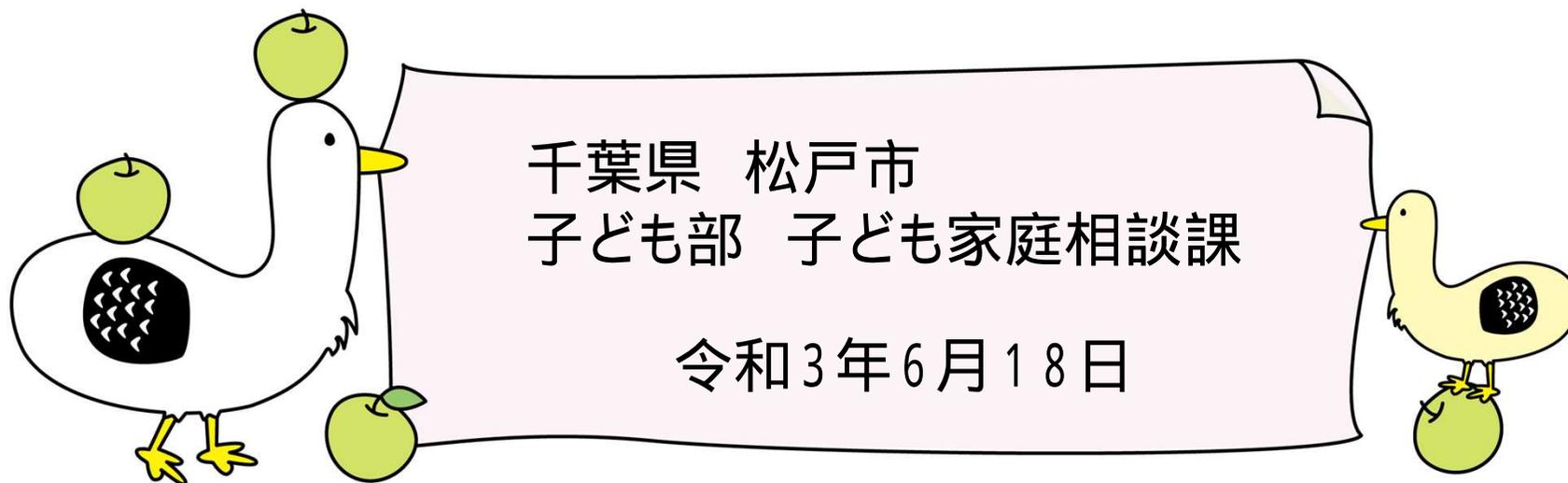
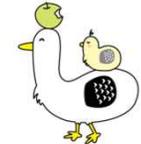


児童虐待対応と母子保健の 一体的な取り組み（松戸市）





2 子ども家庭相談課の組織体制



子ども家庭相談課（令和3年度）

本課

所属長 1名 他3名

子ども家庭総合支援拠点

- ・ 中規模型(児童人口70,666人)
- ・ 正規職員9名(内管理職2名)
- ・ 会計年度任用職員16名

婦人相談(DV等)

松戸市においては、子ども家庭相談課が家庭児童相談室、要対協調整機関、子ども家庭総合支援拠点を兼ねている。

母子保健担当室

中央保健福祉センター
(母子班)

親子すこやかセンター中央

保健師1名、社会福祉士1名、助産師2名

小金保健福祉センター
(母子班)

親子すこやかセンター小金

保健師1名、社会福祉士1名、助産師1名

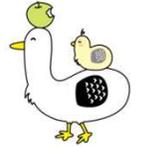
常盤平保健福祉センター
(母子班)

親子すこやかセンター常盤平

保健師1名、社会福祉士1名、助産師1名



3 子ども家庭総合支援拠点、母子保健、要対協の関係



著しい人権侵害である児童虐待をなくすために『予防、早期発見、早期対応』
～ 目指しているのは、切れ目のない連携支援 ～

母子保健 『予防・早期発見・対応』

- ①妊婦の全数面接
丁寧なかかわり。
小さな問題も見逃さない
- ②産後の全戸訪問
100%を目指し、産後の変化を見逃さない
- ③乳幼児健康診査
3~4、6~7、9~10か月健診を実施
- ④特定妊婦支援
乳児虐待を生まれる前から予防
産後ケア、養育訪問事業による個別で
直接指導・支援

H28年4月

親子すこやかセンター設置

(子育て世代包括支援センター)

地区保健師と親子すこやかセンター
職員(保健師、助産師、社会福祉士)
とで機動力、メリハリのある支援の
実現!

子ども家庭総合支援拠点 『早期対応・寄り添い支援』

- ①H29年4月
子ども家庭総合支援拠点設置
支援体制の整備
全員有資格者による支援
支援体制・方法の見直し
- ②支援力の向上
個別、直接、丁寧な親支援
子ども自身の生きる力をはぐくむ支援

→相談件数増、行動件数増

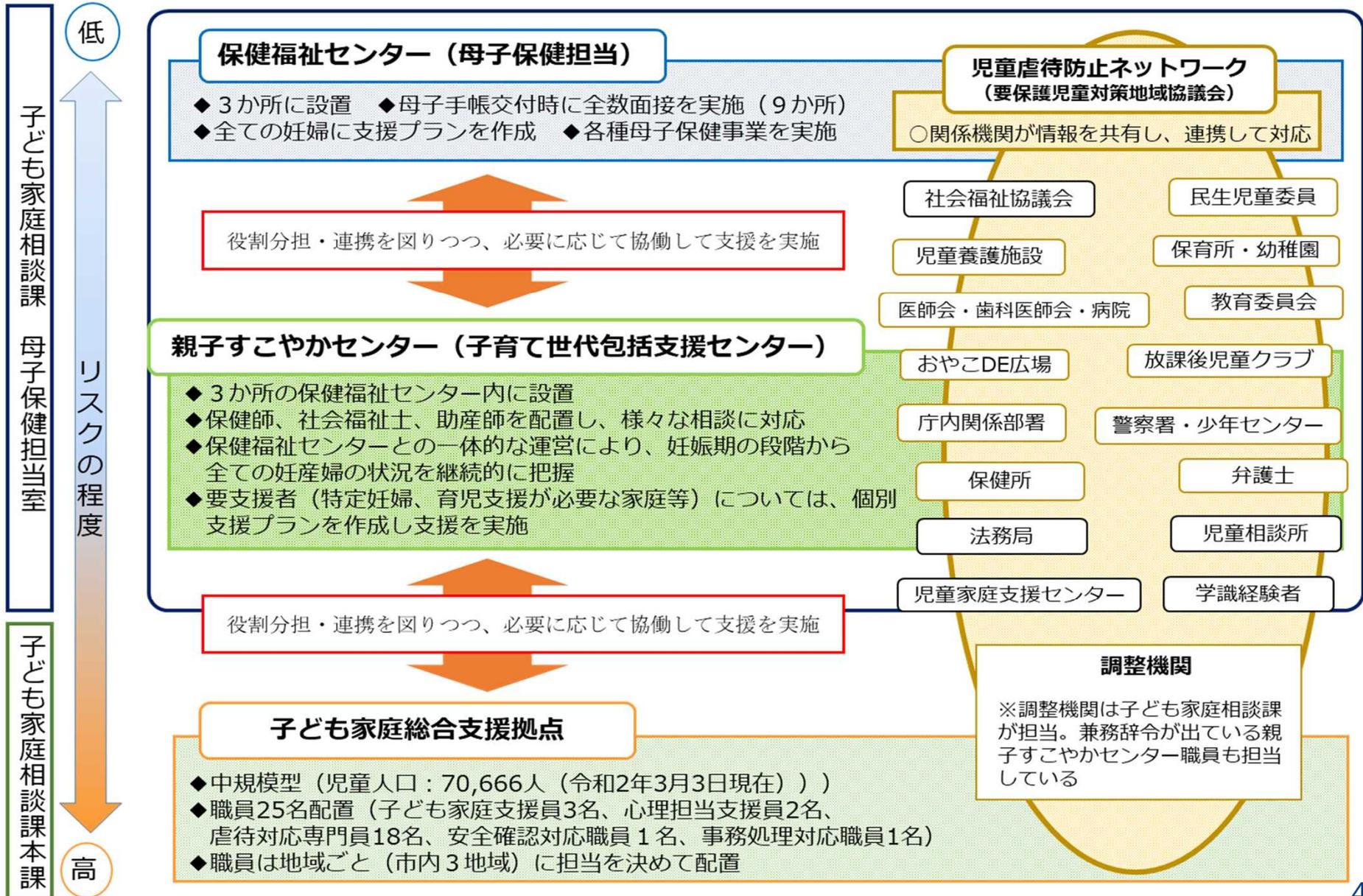
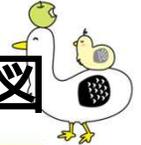


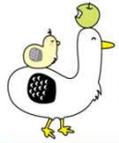
児童虐待防止ネットワーク (要保護児童対策地域協議会) 『連携』

- ①会議体系の見直し
連携、情報の共有をスムーズに
- ②顔の見える関係
研修、普及啓発活動、
医療機関ネットワーク
- ③関係機関を増やす
- ④連携調整機関の役割の確認

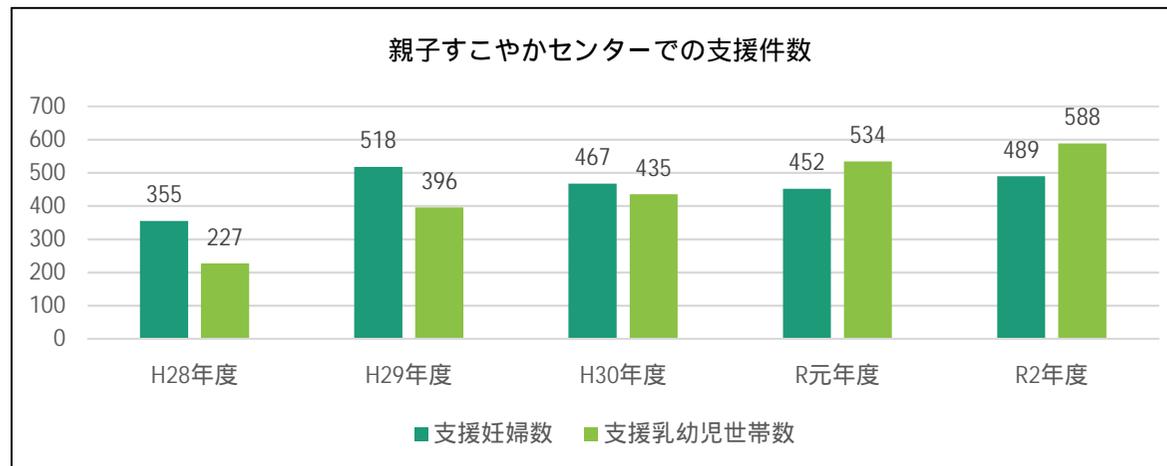
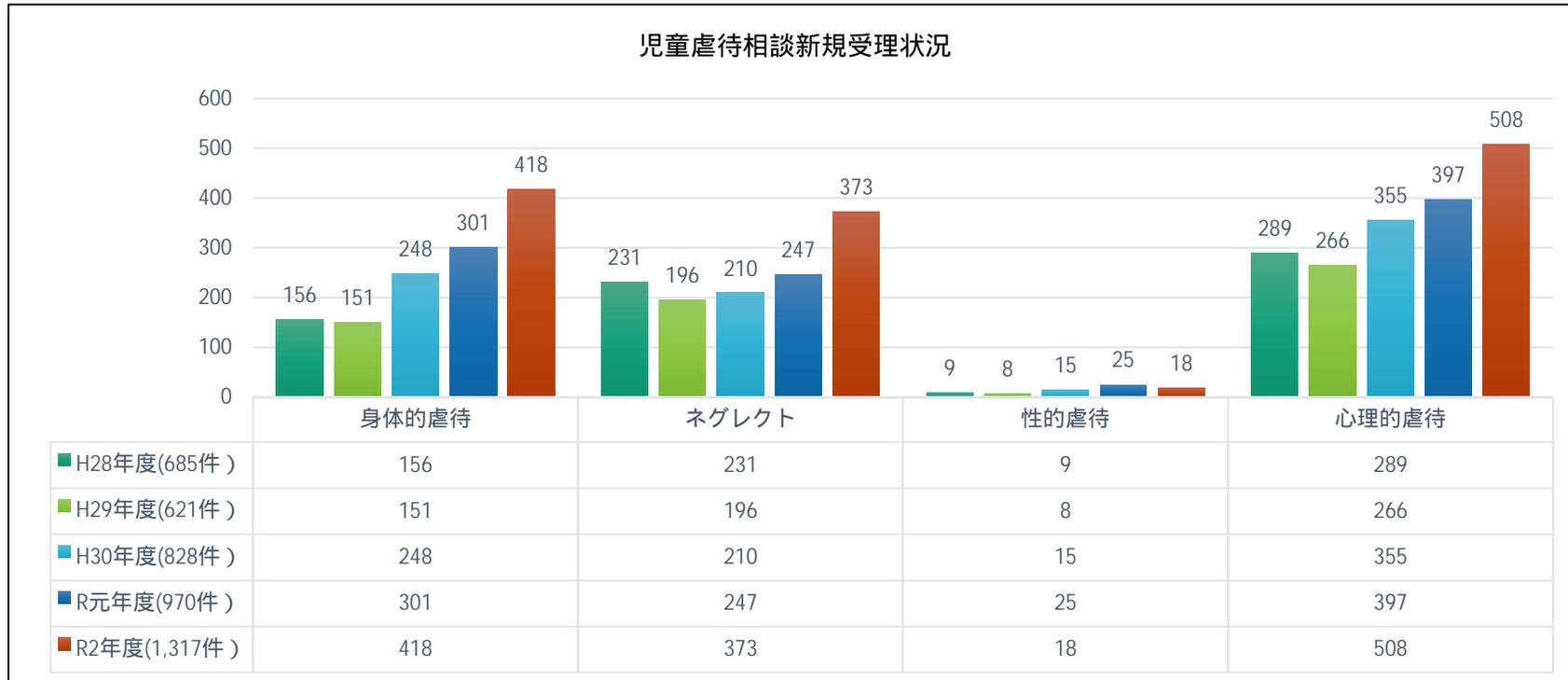


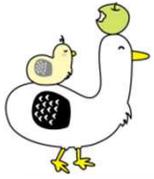
4 子ども家庭総合支援拠点、母子保健、要対協との関係図



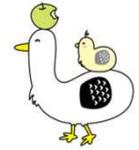


5 児童虐待相談、親子すこやかセンターでの支援状況



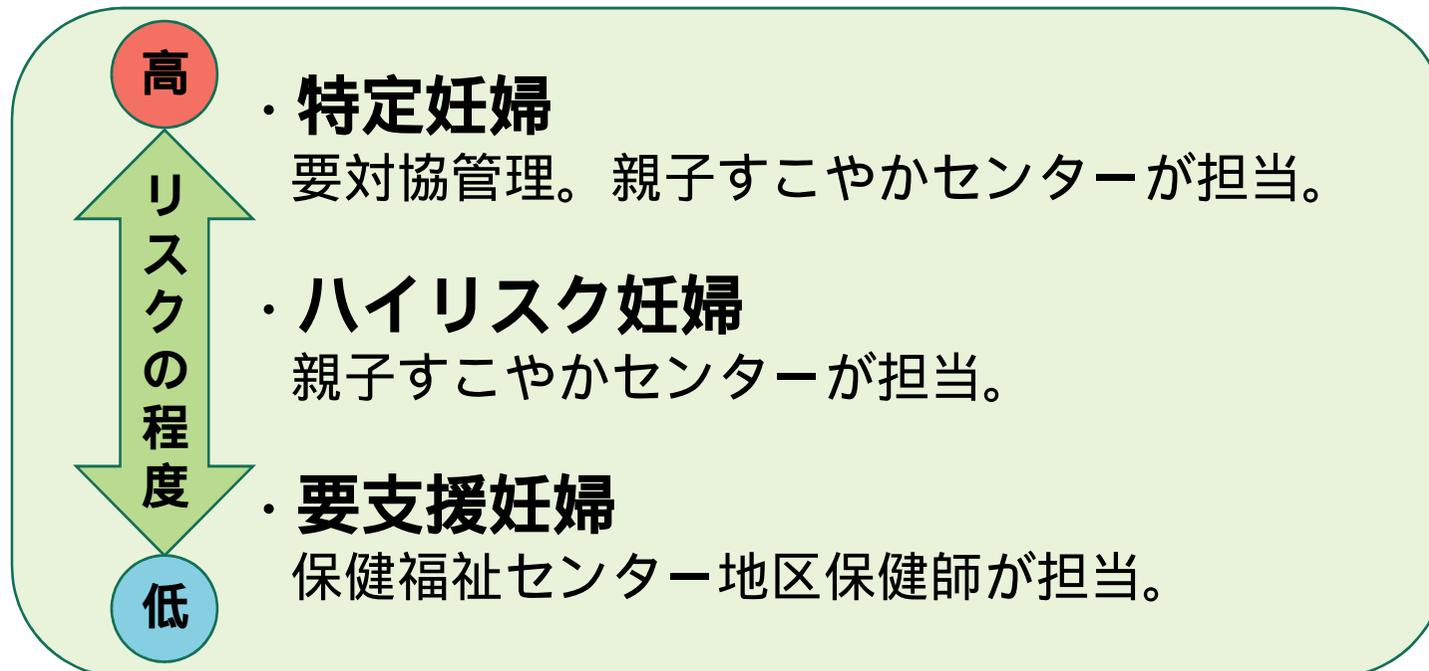


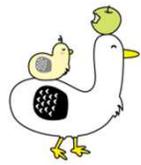
6 妊婦支援について



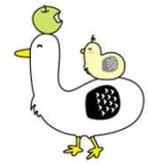
妊婦個別支援基準に該当した妊婦に対して、妊娠中に積極的な支援を行う。

虐待予防の観点からリスクを適切に判断し、支援対象者個々の状況にあった支援に結び付けるため、妊婦個別支援基準該当妊婦を3つに分類。





7 子ども家庭総合支援拠点・本課と 親子すこやかセンターとの連携例

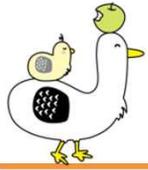


入院助産申請時の協働面接、連携支援

- ・本課担当職員が行う入院助産の面接に親子すこやかセンターの社会福祉士等が同席し、情報、支援の方向性を共有

養育支援訪問事業定例会で情報共有、支援方針の確認（毎月）

- ・親子すこやかセンターが行う養育支援訪問事業定例会に子ども家庭総合支援拠点の地区担当職員が、出席し、支援方針を共有
- ・事業報告を共有し、子ども家庭総合支援拠点の地区担当職員も現況を確認



8 取り組みの効果



同一組織に設置されていることで・・・

- ・ 所管する地区割が同一
- ・ 情報共有、協議がスムーズに行える
- ・ システムの共有
- ・ 連携での課題が生じた際の解決が迅速に行える
機動力のある対応につながっている

指示命令系統が一本

児童福祉と母子保健分野それぞれが職務範囲を理解し隙間を埋めながら連携している。

**妊娠期から子育て期の切れ目のない
連携支援が行いやすい**